

巻 頭 言

情報科学研究センター所長

小 淵 洋 一

『城西情報科学研究』は、今回で第 20 巻になります。本研究は、第 11 巻から研究論文についてはレフェリー制度を導入して以来 10 年になりますが、多くの先生にご投稿いただき、深く感謝申し上げます。

さて、今回は、研究ノート 5 編、報告 2 編の計 7 編ご投稿いただきましたが、これは 4 年連続最多投稿編数です。本研究は、第 19 巻から印刷物にしないでオンライン化し、城西大学の図書館のホームページからいつでもどこからでもみられるようにしました。レフェリー制度を導入して以来、これまで英文の研究論文の投稿が 1 編ありましたが、今回は残念ながら研究論文のご投稿はありませんでした。是非、これからも研究論文のご投稿をお願いいたします。

今年度、情報教育システム「SCNL2009」をスタートさせましたが、教材作成・教材提示を支援するシステムをコースナビから「ウェブクラス」に変更させていただきました。コースナビに慣れたところでの変更であったため、利用者みなさまには大変迷惑をお掛けしました。今後も、赤嶺多恵子氏が常駐して支援いたしますので、ウェブクラスもコースナビ同様ご利用いただきたいと思います。

今年度（2009 年 4 月～2009 年 12 月）のウェブクラスの教員の利用状況についてみますと、コースナビの時とほぼ同じ 40 名あまりの先生が利用し、使い方も変わっていないようです。ログイン数でみる限りでは、経営学部の教員の利用がトップで全体の約 3 割、以下現代政策学部、薬学部、経済学部、理学部、短大の順になっています。一方、学生の利用状況をログイン数でみますと、経営学部がトップで全体の約半分、以下薬学部、経済学部、現代政策学部、理学部、短大の順になっています。経営学部の学生の利用が多くなっていますが、それは履修登録にウェブクラスを使ってさせていることが関係しているものと思われます。ウェブクラスなって、携帯電話からのアクセスも可能になったことから、その利用も若干みられるようになっています。昨年度から、教材資料配布だけではなく、レポート機能に関して対面的な e-Learning が展開されるようになりましたが、ウェブクラスになってもそれには大きな変化がみられないようです。今後、ウェブクラスも、本格的な e-Learning として活用していただければと思っています。

『城西情報科学研究』は、オンライン化されていますので、図書館のホームページからご利用いただくとともに、次回のご投稿をお待ちしております。